

平成30年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

自己点検報告書

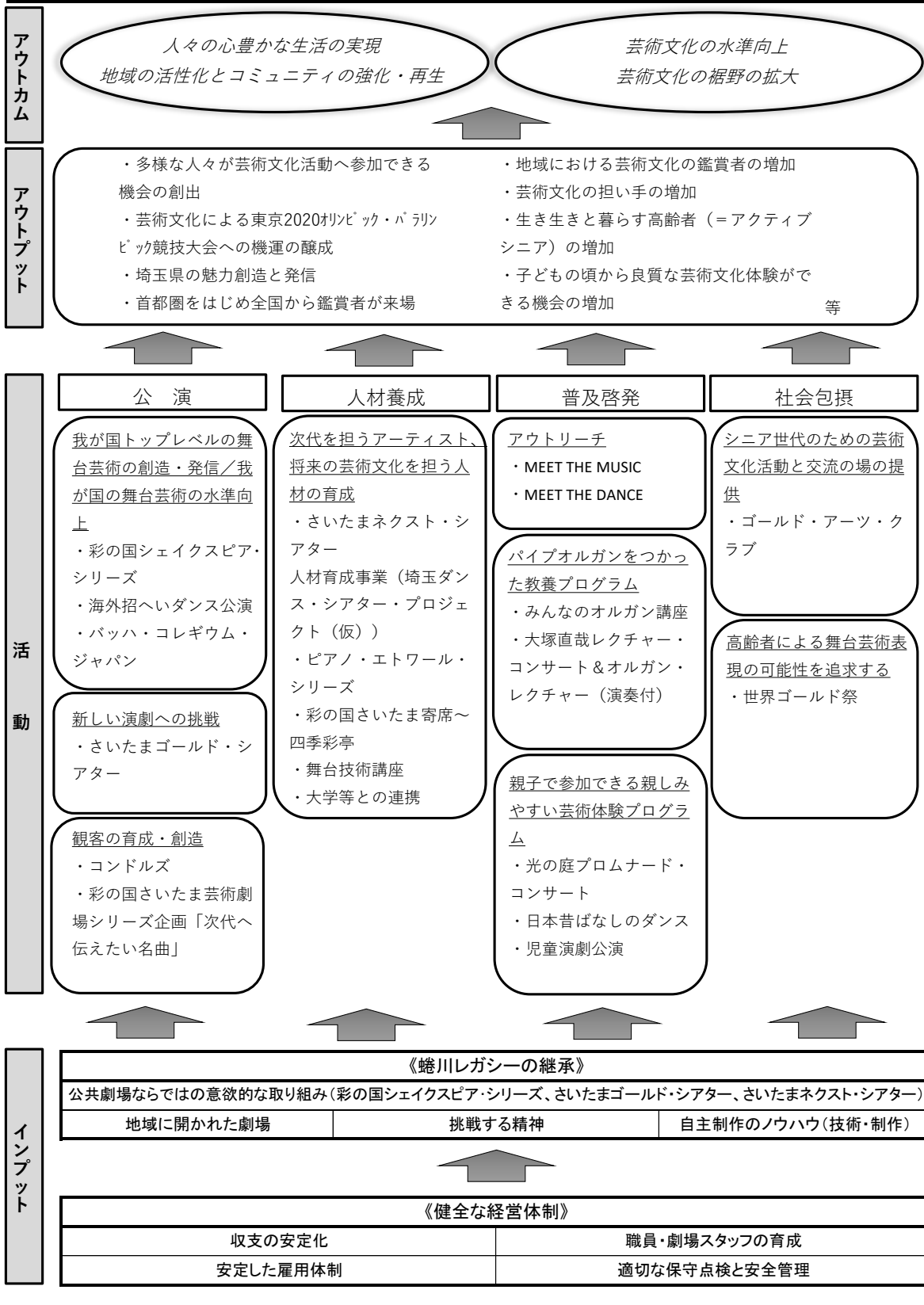
団 体 名	公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団
施 設 名	彩の国さいたま芸術劇場
助成対象活動名	蜷川レガシーの継承と芸術文化による地域づくり・社会包摂機能の強化
助 成 期 間	3 (年間)
内 定 額	59,973 (千円)

事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）

（事業名） 蜷川レガシーの継承と芸術文化による地域づくり・社会包摂機能の強化



(2) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	彩の国シェイクスピア・シリーズ第34弾『ヘンリー五世』	平成31年2月8日(金)～24日(日)	[出演者]松坂桃李、吉田鋼太郎 他 [スタッフ]演出：吉田鋼太郎 作：W.シェイクスピア 翻訳：松岡和子 他	目標値	12,000
		彩の国さいたま芸術劇場大ホール		実績値	14,958
2	さいたまゴールド・シアター	平成30年5月10日(木)～20日(日)	[出演者]さいたまゴールド・シアター・ユニット [スタッフ]構成・演出：岩井秀人	目標値	1,300
		彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO (大稽古場)		実績値	1,207
3	コンドルズ埼玉公演2018 新作	平成30年5月20日(土)・21日(日)	[出演者]コンドルズ(16人) [スタッフ]構成・映像・振付：近藤良平	目標値	1,753
		彩の国さいたま芸術劇場大ホール		実績値	1,880
4	イスラエル・ガルバン『黄金時代』	平成30年10月27日(土)・28日(日)	[出演者]イスラエル・ガルバン ヴォーカル：ダビ・ラゴス ギター：アルフレッド・ラゴス [スタッフ]振付：イスラエル・ガルバン	目標値	1,140
		彩の国さいたま芸術劇場大ホール		実績値	907
5	フィリップ・ドゥクフレ／DCA『新作短編集(2017) -Nouvelles Pièces Courtes』	平成30年6月29日(金)～7月1日(日)	[出演者]カンパニーDCA [スタッフ]演出・振付：フィリップ・ドゥクフレ	目標値	1,711
		彩の国さいたま芸術劇場大ホール		実績値	1,449
6	彩の国さいたま芸術劇場シリーズ企画「次代へ伝えたい名曲」(第13回、第14回)	平成30年5月12日(土)・平成31年2月24日(日)	[出演者(第13回)]荒井英治、戸澤哲夫(ヴァイオリン)、小野富士(ヴィオラ)、藤森亮一(チェロ) [出演者(第14回)]清水和音	目標値	906
		彩の国さいたま芸術劇場音楽ホール		実績値	678
7	バッハ・コレギウム・ジャパン J.S.バッハ《クリスマス・オラトリオ》	平成30年11月24日(土)	[出演者]鈴木雅明(指揮) ハナ・ブラシコヴァ(ソプラノ) クリント・ファン・デア・リンデ(アルト) ザッカリー・ワイルダー(テノール) クリスティアン・イムラー(バス) バッハ・コレギウム・ジャパン(合唱&管弦楽)	目標値	483
		彩の国さいたま芸術劇場音楽ホール		実績値	581
8	さいたまネクスト・シアター	平成30年6月23日(土)～7月1日(日)他	[演目]『ジハード -Djihad-』『第三世代』 [出演者]さいたまネクスト・シアター 他	目標値	1,950
		彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO (大稽古場)		実績値	2,032
9	人材育成事業	平成30年8月1日(水)～11日(土)	講師：湯浅永麻、小尻健太	目標値	20
		彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO (大稽古場)		実績値	25
10	彩の国さいたま寄席～四季亭亭	平成30年4月14日(土)他	[出演者]林家正蔵、入船亭扇好、古今亭文菊、林家たま平、春風亭昇りん 他	目標値	1,100
		彩の国さいたま芸術劇場小ホール		実績値	1,228
11	ピアノ・エトワール・シリーズ (Vol. 34-36)	平成30年6月10日(日)他	[出演者 (Vol. 34)]シャルル・リシャール＝アムラン [出演者 (Vol. 35)]ダニエル・シュー [出演者 (Vol. 36)]レミ・ジュニエ	目標値	1,359
		彩の国さいたま芸術劇場音楽ホール		実績値	1,390
12	舞台技術講座	平成30年8月8日(水)～平成31年3月27日(水)	講師：当劇場技術スタッフおよび外部講師	目標値	200
		彩の国さいたま芸術劇場大ホール 他		実績値	80
13	大学等との連携(インターンシップ、講師派遣)	通年	講師：当財団職員	目標値	40
		彩の国さいたま芸術劇場 他		実績値	50
14	MEET THE MUSIC～アーティストが学校にやってくる!	平成30年10月12日(金)～平成31年2月8日(金)	[出演者]金管五重奏 他	目標値	300
		久喜市立鷲宮小学校 他		実績値	284

(2) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
15	光の庭プロムナード・コンサート(第99回～第105回)	平成30年5月19日(土)～平成31年3月23日(土)	[出演者]徳岡めぐみ(オルガン)&片岡詩乃(ハープ)他	目標値	1,500
		彩の国さいたま芸術劇場 情報プラザ		実績値	2,110
16	みんなのオルガン講座	平成30年8月26日(日)～平成31年3月10日(日)	講師:大塚直哉、大木麻理	目標値	80
		彩の国さいたま芸術劇場 大練習室 他		実績値	192
17	大塚直哉レクチャー・コンサート&オルガン・レクチャー(演奏付)	平成30年9月2日(日)・平成31年1月20日(日)	[出演者]大塚直哉(オルガン、チェンバロ、お話、講師)、島田真千子(ヴァイオリン)	目標値	224
		彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール 他		実績値	639
18	MEET THE DANCE～アーティストが学校にやってくる!	平成30年11月1日(木)～平成31年2月15日(金)	講師:北村明子(ダンサー・振付家)、藤田善宏(ダンサー・振付家)	目標値	80
		埼玉県戸田市立美笹中学校 他		実績値	376
19	日本昔ばなしのダンス	平成31年2月23日(土)・24日(日)	[出演者(つるのおんがえし)]稲村はる、宮内愛、山口夏絵 [出演者(かさじぞう/てんぐのかくれみ)]鎌倉道彦、藤田善宏、山本光二郎、近藤良平 [スタッフ]演出・振付:近藤良平、山口夏絵	目標値	512
		彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO(大稽古場)		実績値	672
20	新作児童演劇公演	平成30年4月29日(日)～5月6日(日) 他	[演目]めにみえない みみにしたい [出演者]伊野香織、川崎ゆり子、成田亜佑美、長谷川洋子 [スタッフ]作・演出:藤田貴大	目標値	1,080
		彩の国さいたま芸術劇場 小ホール 他		実績値	1,383
21	劇場体験ツアー	平成30年12月23日(日)～26日(水)	[出演者]さいたまネクスト・シアター [スタッフ]彩の国さいたま芸術劇場 技術スタッフ	目標値	240
		彩の国さいたま芸術劇場 大ホール		実績値	337
22	ゴールド・アーツ・クラブ	平成30年7月31日(火)～10月8日(月・祝)	[演目]病は気から [出演者]ゴールド・アーツ・クラブ 他 [スタッフ]脚本・演出:ノゾエ征爾 他	目標値	500
		彩の国さいたま芸術劇場 大ホール		実績値	782
23	世界ゴールド祭	平成30年9月24日(月・祝)～10月8日(月・祝)	[実施内容] (1)海外の高齢者カンパニーによる公演 (2)さいたまゴールド・シアター共同制作公演 (3)シンポジウム (4)ワークショップ 他	目標値	2,000
		彩の国さいたま芸術劇場 他		実績値	5,898
平成30年度の目標値、実績値				目標値	30,478
				実績値	39,138

【妥当性】

自己評価

事業計画に必要な構成要素が関連し、当初の予定通りに事業が進められているか。

○当劇場は「創造・発信」「人材養成・普及啓発」「芸術文化活動への支援」「社会包摂」の4つを劇場の役割と位置づけ、これらを複合的に推進しながら「芸術文化による心豊かな生活と活力ある地域社会づくりを実現する」「我が国の芸術文化の水準向上と持続的な発展に寄与する」という2つのミッションの達成（＝アウトカム）に挑戦している。事業計画の初年度となる平成30年度は、軽微な変更はあるものの、概ね予定どおり実施することができ、アウトカムの発現に向けて順調に進められているものと自己評価する。

○看板事業である「彩の国シェイクスピア・シリーズ」では、二代目芸術監督の吉田鋼太郎の演出・出演により『ヘンリー五世』を上演したほか、世界のトップアーティストによる最新作を上演するなど多様なニーズに応えるラインナップで、観客層の拡大と我が国の舞台芸術水準の向上に資することができた。

○今年度は「さいたまネクスト・シアター」による新シリーズ「世界最前線の演劇」と「さいたまダンス・ラボラトリ」という人材養成プログラムを立ち上げ、若手俳優・ダンサーの育成を図ったほか、県高校演劇連盟と連携した技術研修会等を実施し、次代の舞台芸術を担う人材の養成に取り組んだ。

○親子で気軽に鑑賞できる「光の庭プロムナード・コンサート」は100回記念スペシャルを開催、また、県内小中学校へのアウトリーチ事業も実施するなど地域における芸術文化の普及啓発にも積極的に取り組んだ。

○社会包摂では、「さいたまゴールド・シアター」の成果を踏まえ、世界的に見ても先駆的取組である高齢者による舞台芸術の国際芸術祭「世界ゴールド祭」を県との共催により実施した。市内の駅周辺等では地元商店街の協力を得て屋外パフォーマンスも開催し、芸術文化による地域づくりにも貢献した。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

○上記取り組みには助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるものと自己評価する。

【有効性】

自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

○本事業計画ではアウトカムの発現を目的に7つの目標と8つの指標を定めた。芸術文化の領域ではその性質上、事業実施による成果を短期間で数値的に表すことが困難である。また、当劇場は唯一の県立劇場であることから、一部の地域だけでなく県全体で効果を計るという観点から、県が作成した「埼玉県文化芸術振興計画 2016-2020」における指標や全県調査等複数年に渡る変化を観察できる指標を引用し、それらの指標を参照することで3年間の事業計画の成果を計測する考えである。

○本事業計画では「蜷川レガシーの継承」と「社会包摂機能の強化」に主眼を置いている。「蜷川レガシーの継承」として「彩の国シェイクスピア・シリーズ」をはじめとした創造・発信事業を柱としながら、世界の先鋭的なダンス作品の招聘公演や人材養成事業、普及啓発事業など複合的なプログラムを展開することにより、我が国の芸術文化水準の向上と裾野の拡大に寄与できると考えている。

○一方「社会包摂機能の強化」を図る事業として、「世界ゴールド祭」を平成30年度に初開催した。この世界的に見ても珍しい芸術祭はマスメディアにも多数取り上げられ、参加者数2,000人以上という目標を大きく上回る5,898人が参加した。また、平成29年度に発足した60歳以上による芸術クラブ活動「ゴールド・アーツ・クラブ」はノゾエ征爾の脚本・演出による第1回公演を行い、738名の参加者全員に自己表現の場と同世代の交流の場をつくることができた。埼玉県は全国で最も早いスピードで高齢化が進んでいるが、芸術文化活動を通じてシニア世代の活力や創造性が豊かになることで、地域が活性化し、ひいては地域コミュニティの強化・再生にも効果が及ぶものと考えている。

○社会包摂事業については劇場が単独で行うには財政面や運営面でのハードルが高いが、県との共催により実施できたことや、開催地域の商店街等の協力を得られたことで、円滑に進めることができた。

【効率性】

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

○平成30年度の入場者数・参加者数は目標の30,478人に対して、実績は39,094人と大きく上回る結果となった。「彩の国シェイクスピア・シリーズ」は当初19回公演で12,687人の入場者を見込んでいたが、チケット販売が好調であったことから追加公演を行い、最終的な入場者数は14,958人であった。また、「世界ゴールド祭」は芸術文化を通じて社会とより積極的に関わるというコンセプトから、劇場内のみならず野外でのパフォーマンスを制作・実施した結果、普段劇場に足を運ばない県民を巻き込むことができ、前掲のとおり2,000人以上という目標を大きく上回る5,898人が参加した。事業期間に変更はなく、当初の狙い以上のアウトプットが表れていると自己評価する。

○平成30年度の助成対象経費の総額は予算額315,012,000円に対して、決算額は284,463,574円であった。変更額は▲30,548,426円で、当初の予定より事業費を9.7%抑えることができた。海外招聘作品については、国内の複数の劇場と連携してツアー公演を組むことで、各館の費用負担を下げる工夫をしている。今年度のフィリップ・ドゥクフレ／カンパニーDCA『新作短編集(2017) —Nouvelles Pièces Courtes』は当劇場のほかに北九州芸術劇場とびわ湖ホールを巡回し、イスラエル・ガルバン『黄金時代』は名古屋市芸術創造センターでも公演を行った。また、「ゴールド・アーツ・クラブ」は当初500人の参加見込みに対して、59,030,000円の支出を見込んでいた。参加者を募集した結果、見込みの約1.5倍の738人が参加することとなったが、稽古の運営体制等を工夫することで舞台費等を抑えることができ、実績報告時の支出は48,810,733円であった。事業費を適切に執行しながら、事業内容の質を落とすことなく事業計画を進めることができたとして自己評価する。

【創造性】

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性等に優れている（と認められる）か。

○平成18年より当劇場の芸術監督を務めてきた蜷川幸雄氏が平成28年6月に逝去された。以降当劇場では蜷川氏の遺したレガシーの継承を方針として、制作グループの要であるエグゼクティブ・プロデューサーを中心に事業展開をしている。

○蜷川氏が創設した2つの演劇集団「さいたまゴールド・シアター」と「さいたまネクスト・シアター」について氏は生前から「演劇部門の両輪」と位置付けており、氏の逝去後も活動を継続することとした。「さいたまゴールド・シアター」は平成18年の結成以来、高齢社会を背景に社会的にも大きな注目を集めており、訓練されたプロの俳優とは異なり生活者のリアルを背負って舞台に立つ姿は演劇界に新しい風を吹き込んだ。平成30年度は劇団ハイバイの岩井秀人を構成・演出に迎え、自身に起きた出来事を自ら台本化し演じる「ワレワレのモロモロ」に挑戦し、冷蔵庫の買い替えといった日常的な出来事から過酷な戦争体験まで6つのエピソードを舞台化し、彼らの人生のドラマを生々しく表現した。一方、2009年に発足した若手演劇集団「さいたまネクスト・シアター」は、設立から2年目・3年目に発表した作品で2年連続読売演劇大賞の優秀作品賞を受賞するなど躍演劇界に頭角を現した。平成30年度は「世界最前線の演劇」と称する新シリーズを立ち上げ、世界の紛争地域から生まれる優れた現代劇2作品に挑戦した。演出はそれぞれ瀬戸山美咲、中津留章仁が手掛け、気鋭の演出家との創作を通じて俳優としての更なるレベルアップを図るとともに、劇団としても新機軸を打ち出すことができた。

○ダンス部門では開館以来世界の最先端の舞台表現を紹介してきた。「ダンスのさいたま」は当劇場のもう一つの顔であり、引き続きダンス専門のプロデューサーを中心として当劇場ならではのプログラムを実施していく。平成30年度は平成26年、28年にも当劇場で来日公演を行ったフィリップ・ドゥクフレとカンパニーDCAIによる最新作『新作短編集（2017）—Nouvelles Pièces Courtes』とフラメンコ界の革命児イスラエル・ガルバンによる代表作『黄金時代』を招聘し、世界のダンスシーンを牽引するアーティストによる作品の鑑賞機会を提供する一方、近藤良平率いるコンドルズとは平成18年以来継続して当劇場オリジナル作品を創作・上演しており、ダンスの鑑賞者層を拡大する取り組みにも力を入れている。

○当劇場は演劇・ダンス・音楽・映像等に対応した4つの専門ホールと12の稽古場・練習室を備えており、同じ施設内で一貫した創作および上演が可能となっている。さらに平成29年には「NINAGAWA STUDIO（大稽古場）」の興行場営業許可を得て、連続5日以上以上の公演が可能となり、より多様で実験的な作品の創作・上演環境が整った。平成30年度はさいたまネクスト・シアターの新シリーズや「日本昔ばなしのダンス」の新作等を同会場で実施している。

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

○平成30年度に初開催した「世界ゴールド祭」は高齢者による舞台芸術にフォーカスした世界的に見ても珍しい国際芸術祭であるが、新聞・雑誌44件、ウェブ27件、テレビ4件と多くのマスメディアに取り上げていただくことができ、県内のみならず全国的に広報することができ、プログラム内容にも好意的な評価を得られた。

○さいたまゴールド・シアターはほとんどが演劇経験のないメンバーにより構成され、平成18年に活動を開始したが、平成25年には初の海外公演を成功させるなどの躍進を遂げ、現在では高齢者劇団のモデルケースとして全国的に認知されている。平成30年度は神奈川県舞台芸術関連事業「共生共創事業～ともに生きる ともに創る～」の開始記念公演として招聘され、県民共済みらいホールにて岩井秀人構成・演出による『ワレワレのモロモロ ゴールド・シアター2018春』の改訂版を上演した。このほかにも同劇団の公演を検討中の劇場が国内および海外にあって、劇場の認知度や評価の向上につながっていると考えられる。

【持続性】

自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。
持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

○劇場の組織活動を支えるのは何よりも人材であることから、当劇場の指定管理者である当財団では平成28年4月1日で対象となる有期契約職員のうち無期契約への転換を希望した全員を無期契約化した。雇用の安定化を図ることで、組織活動を持続的に発展する基盤ができたと考える。

○当財団は埼玉県100%出資による公益財団法人であり、劇場の事業費の原資となっているのは指定管理料である。しかしそれだけですべての事業費をカバーできないため、民間助成金や協賛金等外部資金の獲得に努めている。特に社会包摂事業はその性質上収入が期待できないため、「世界ゴールド祭」「ゴールド・アーツ・クラブ」については民間助成金を活用することで費用負担を減らしつつ事業内容の充実を図った。また、当劇場は現在113社あるサポーター企業からの協賛金にも支えられており、年に1回鑑賞会および懇談会の場を設け、当劇場の取り組みに対する理解を深めていただくとともに、コミュニケーションを図っている。

○組織活動の持続的な発展には他の劇場・音楽堂等とのネットワークも重要であると考えている。今年度創作初演した『めにみえない みみにしたい』は次年度に北海道から沖縄まで全国14か所を巡るツアー公演を組むことができ、鑑賞機会を増やすだけでなく、ツアー公演のための助成金が獲得できるといったメリットもある。また、当劇場では平成28年から吉川市、平成30年から東松山市の芸術文化事業に対する支援を行っており、拠点劇場として地域における芸術文化の裾野の拡大にも貢献している。

○当財団では指定管理者制度に基づき、組織活動全般について定期的にモニタリングを行い、課題把握と対応策の立案・実施に努めている。四半期および年度終了後には、施策や業務の達成状況を自己評価し、その結果を次年度にフィードバックしており、こうしたPDCAを繰り返し回すことで、劇場の機能強化を図っていくことができるものと考えている。